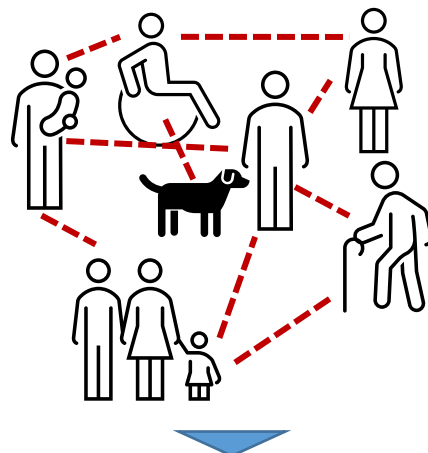


菊水健史（社会内分泌） 永澤美保（同調的共生） 茂木一孝（社会神経科学）
今野晃嗣（動物社会認知科学） 石原淳子、小手森綾香（食のデータサイエンス）

研究の背景

- ・ イヌが介在することで、地域におけるヒトのつながりが生まれるといわれています。特に見知らぬ人との声かけは、地域社会におけるネットワークを高めそれを介して、ヒトのウェルビーイングが高まると考えられています。
- ・ しかし、これまでの調査はイヌの飼い主や非飼い主さんのもつ疑問や課題を正確に捉えてたものはありません。
- ・ 今回、イヌの飼育者や非飼育者の方に対してヒアリングを行い、ウェルビーイングを高めることにつながるもの、あるいはそれを阻害するものが何かを調べます。またその具体的な改善方法を模索する「シビックサイエンス（市民科学）」を実施します。



ウェルビーイング

アプローチ

- ・ イヌの飼育者と非飼育者の方々を募集して、アンケート調査によってウェルビーイングに関連する因子やそれを阻害するものがあるかを調べます。
- ・ 複数名の方にインタビューを実施し、その要因を深掘りします。
- ・ 見出された要因に対して、どのような解決策があり得るのか、飼い主さん、非飼い主さんを交えて、意見交換をします。
- ・ 具体的な提案を策定し、可能であれば介入を行います。



期待される結果

- ・ イヌの飼育者と非飼育者の接点を見つけることができます。
- ・ 統計的な処理による因子の同定を目指します。
- ・ また因子に対しての可決策の提案が可能となります。
- ・ そのような市民参加型の研究を通して、成果を社会に還元できます。

募集方法

- ・ 介在動物学研究室のゼミに参加してもらい、最近の知見や研究の進め方に関して学んでもらいます。毎週3回、朝8時から行います。
- ・ 本実験は、研究参加者と緻密かつ丁寧なやり取りと、根気強く調査を続ける継続性が求められます。
- ・ グループとして実施しますので、協力しながらできる力が必要になり、それが養われます。
- ・ ものすごいチャレンジングなテーマです。強い気持ちでやってみたい学生さん、是非どうぞよろしくおねがいします！



LIFE IS GOOD
WITH DOGS

